

2022年度「なごや環境大学」実行委員会 総会 議事録

日 時：2022年5月25日（水）16：30～19：00

場 所：名古屋市環境学習センターエコパルなごやバーチャルスタジオ
及びオンライン開催

出席者 総出席者	40名	（委任状含む）
・委員長	1名	
・学長	1名	
・委員	20名	（出席委員14名、委任状6名）
・監事	1名	
・参与	8名	
・フェロー候補	9名	
		（元実行委員2名、チーム委員4名、アドバイザーボード3名）
・事務局	7名	
・傍聴者（環境企画課）	2名	

1 はじめに

司会挨拶より総会開始

事務局の司会で総会開始。当総会は Web 会議を含むことに言及。

(1) 挨拶

杉野委員長挨拶

名古屋市副市長の杉野でございます。実行委員会の委員長として、一言ご挨拶申し上げます。本日は、ご多忙の中、なごや環境大学実行委員会総会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

また、日頃は、なごや環境大学の運営並びに名古屋市の環境行政にご理解とご協力を賜わり、重ねてお礼申し上げます。さて、なごや環境大学は、「環境首都なごや」そして「持続可能な地球社会」を支える「人づくり、人の輪づくり」を目的として2005年に開学しました。現在ではこうした「人のつながり」を築く取り組みの先進的事例として、全国的に評価されるようになりました。これもひとえに、なごや環境大学を思う皆様方のご尽力の賜物でございます。心より感謝申し上げます。

今後とも、力が持続していきますように、皆様方の格別のお力添えを賜りますようお願いいたします。私からのあいさつとさせていただきます。

涌井学長挨拶

学長を務めさせていただいている涌井でございます。今日は久々にリアルで参加できて大変うれしいなということ、併せてオンラインで皆さんにご参加いただきましてありがとうございます。

私も丸7年学長をしておりますあまり長いのもよくないなと思い、サクセッションプランに基づいて、しっかり次に引き継ぐことも考えつつ本日出席したところでございます。

しかし残念なことに COP10 からの、2050 年愛知目標がコロナの影響もありで毎年、毎年、2020 年が繰り越されまして生物多様性の 10 年といいながら 600 日以上 10 年ということになっています。

ようやく中央で、国連生物多様性の 10 年日本委員会が改組され、どのようにポスト愛知目標に向かって日本政府が努力するのか、そういう議論をする組織です。

最近 WHO がワンヘルスと言い出しました。これはプラネタリー・バウンダリーという、地球の健康が限界になっていることを踏まえ、自分たちの健康を考えるのではなくて、地球の健康を考えること、それが結果としては自分たちの健康になるという、「ワンヘルス・ワンワールド」という考え方です。

それから最近 NBS : Nature-based solution、これまでは科学技術や営造物でやってきたのをこれを乗り越え、生態系にいろんな働きかけをしながら、それで間に合わないという場合は営造物でという考え方がポストコロナの時代に非常に前に出てきてます。その意味では愛・地球博を含めて、COP10 そうしたものを全部包摂して、なごや環境大学も市民によって維持されてきた意味合いというのは大きいと考えています。

環境と市民の関わりについて「なごやに聞け」と言われるように、こういったブランドをどうやって立ち上げて、我々の未来の子供たちによりよい世界を残せるのかというのが、非常にこの大学に託された部分の課題だという風に思っています。

私は次に引き継ぐまで、そういう視点で少し努力していきたいなど、残された時間の中で精一杯皆さんと共にそういった努力をさせていただきたいと思っています。

今日はどうもありがとうございます。オンラインでご参加いただいた方にも心からお礼を申し上げます。

(2) 実行委員等の異動について

参与の異動・・・「参考資料 P.1 2022 年度「なごや環境大学」実行委員会名簿」

資料に基づき事務局から説明。人事異動により新たに就任された参与の方は次のとおり。

- ・農林水産省東海農政局 生産部 生産技術環境課長 浅野 昌江 様
- ・国土交通省中部運輸局 交通政策部 次長 小笠原 洋和 様
- ・愛知県環境局環境政策部 環境活動推進課長 加藤 尚巳 様

2 議事

本日は定数委員のうち委任状含め 14 名の実行委員に出席をいただき、3 分の 2 以上の出席であるので、規約第 11 条第 2 項に基づき本日の総会は有効に成立している。また、本日の議長は規約に基づき杉野委員長が進行する。

第 1 号議案：「2021 年度事業報告（案）」・・・「議案集 P.2～12」、 「2021 年度活動報告書」

議案集に沿った形で 2021 年度の活動方針と重点取り組み事項に基づくそれぞれの総括報告が行われた。以下の順に、報告が行われた。

市橋事務局長（全体総括）

鵜飼委員（企画チーム）
杉野委員（人の環・広報チーム）
事務局 小出次長（ユースクラブ）
事務局 小出次長（森林プロジェクト）
千頭委員（SDGs 未来創造クラブまちづくりプロジェクト）
大鹿委員（SDGs 未来創造クラブ人づくりプロジェクト広報）

第2号議案：「2021年度決算（案）」・・・「議案集 P.13～19」

議案集に基づき事務局から説明。その後事務局から説明のあった決算書につき2名の監事による監査が行われていることを案内。監査結果について、監事を代表して名和監事から「監査の結果、適正に執行管理している」旨報告された。

質問及び回答、意見交換等

なし

第1号議案、第2号議案とも拍手で承認される。

第3号議案：「実行委員会規約改正（案）」・・・「議案集 P.20～23」

議案集に基づき事務局から説明。

質問及び回答、意見交換等

なし

拍手で承認される。

第4号議案：「委員の選任（案）」・・・「議案集 P.24」

議案集に基づき委員はなごや環境大学実行委員会規約第4条第3項により当会議の承認を経て委員長が選任するとなっている。候補者のうち名古屋市区政協力委員議長評議会議長に就任をされた、杉浦様、アドバイザーボードより岸田様、長谷川様、松本様、千頭様が新たな実行委員の候補者となる。加えて、市役所の人事異動に伴い、武田総務局企画調整監、太田教育委員会教育次長吹上環境局環境都市推進監が新たな委員の候補者となる。また、杉野委員、坪井委員、大鹿委員、前田委員、横山委員が就任から2年がたち本日の総会で任期満了となるため委員再任の候補者となる。委員の候補者の方々については、本人の同意をいただいている。

質問及び回答、意見交換等

なし

拍手で承認される。

第5号議案：「2022年度事業計画（案）」・・・「議案集 P.25～28」

事務局から議案集に沿った形で2022年度の活動方針と重点取り組み事項に基づくそれぞれの事業計画案の説明が行われた。

第6号議案：「2022年度予算案（案）」・・・「議案集P. 29」

議案集に基づき事務局から説明。

質問及び回答、意見交換等

なし

第5号議案、第6号起案が拍手で承認される。

事務局からの報告事項

実行委員会規約第12条により、涌井学長より幹事会及び実行チームの委員についてご指名。

実行体制（案）についての補足説明

参考資料に基づき事務局より総会以降の体制について事務局より説明

幹事会、実行チーム、フェロー候補について

その他の発言

発言をいただけていない方のうち2名から、一言感想などを話していただいた。

岸田委員

自分は今回、チームに属さないと考えていたが事業の中でぜひ検討していただき点が一つありまして非常に大学を巻き込んでいろんな活動を行っている中にせっかくいろんなアイデアができていくときに協働を意識した提案がどこかに組み込めないかなと思う。

なごや環境大学の役割の一つにまさに企業や大学と一緒にできる展開が期待されているのではと思う。その中に大学生がいろいろ提案するということでもう少し一緒にやれるような内容が展開されるとよりよいと感じている。新しい展開としてそこに学生の提案が加わり、次のステップとして提案できればいいかなと感じている。そうすれば環境大学らしい展開を進めていけると感じる。

長谷川委員

生物多様性を柱に2030年のSDGs達成に向けて、国連のほうも生態系回復の10年ということで回復させていくこともあり、それには名古屋はすごく生物多様性が高い、破壊されたホットスポットの認識がまだまだみんなに浸透していないので、市民・企業、行政一緒になって生物多様性の高い名古屋を見せて行く必要があると感じる。いまはヒメボタルが名古屋城の堀できれいに見える。宿泊して見ていただくといった見せ方が重要となる。

コロナが明けてから海外からの観光客が東京、京都ではなくて名古屋に寄っていただいている。名古屋城は城郭として国宝第1号だったこともあり、文化と生物多様性という部分をつなげていきたい。

2030年の目標達成に向けて、加速させていける歯車の一人になればいいなと思っている。

退任する方の紹介、お言葉

今回の総会をもって退任する野中委員にご挨拶いただいた。(山口委員は欠席)

野中委員

実行委員を4年間務め、主に企画チームで動いてきた。

個人の健康上の都合で入退院を繰り返した事情があった為お役に立てなかった。2019年に香坂玲先生にお願いし名古屋で考える防災とグリーンインフラというイベント、講演を準備段階から司会まで携わり大変いい体験をさせていただいた。ただ昭和区の公園の活性化のイベントは最初自分で参加すると手を挙げたのにも関わらず入院したためほとんど参加できず迷惑をかけてしまった。その後の2年間はコロナの影響でいろんな企画、イベントが中止となってしまった。

もしもフルで開催できていても、体の都合上お役に立てなかったかもしれない。こういった事情で、実行委員は退任させていただくが、今後はフェローとしてまた関わらせていただきたい。

杉野委員長

これまで色々なご縁をいただいた。千頭委員とは、名古屋都市センターに以前自分が勤務していた時からご指導をいただいているが、皆様からの様々なご報告を受け、なごや環境大学の取組が大きく広がっているなど確信した。名古屋都市センターはまちづくりを推進していくところだが、以前から自分も人づくりのほうにも非常に興味があった。環境塾の時に実は委員になっていただいた長谷川様にお力添えをいただきましたし、東山公園グランドワークの時に岸田委員にもお力添えをいただいております、いろんな多方面からのご支援を涌井学長からもいただいている。住宅都市局に勤務していた時期も、非常にお力添えをいただいた。なごや環境大学も市民の方、活動団体の方から非常に深い関わりを持ってご縁いただいているんだなと再認識する。委員長として務めさせてもらっている事を非常に光栄に思っている。

終わりに

涌井学長より

ご指名ありがとうございます。今回、杉野委員長をお迎えしたということは非常に我々としては心強いと思っております。

国際的にみると、いま愛知目標あるいは名古屋の継承と含め、この中部地区の地名が二つとも国際機関の中に名を残しているのは稀有なケースだと思う。そういう面ではおそらく世界から見ると名古屋、愛知はある種の環境の聖地だと思う。

昨日実は1月2日にお亡くなりになられた泉真也さん、91歳ですけれども愛・地球博のプロデューサーでございました、そのしのぶ会において、関係者の方々こういう話がありました。

「愛・地球博は単に大成功しただけではなく、博覧会というものが消滅しようとしたところに愛・地球博の成功が実は博覧会の寿命を延ばしている。」これは世界にとっては非常に重要な意味があると思う。しかもそれは何かというと市民力。ここが私も非常に意味があると思う。いわゆる埋め立ての問題、なごやのごみ非常事態宣言含め、そして愛・地球博、そしてその後のCOP10すべてに渡って市民力が非常に優れていた。

残念ながら今姿を消しましたが愛・地球博で使われたエコマネーがその後7、8年に渡ってです、ね、まだ流通していたこと。なごやの市民の皆様の方々の力というものすごい所があるなど。

このブランドをしっかり引き継いでいくのはなごや環境大学であるという意識をもって私は学長の任務にあたらせていただいております。

なごや環境大学は仮想の大学であります。なかなかリアルで次の世代を担う学生と関係を築いていくことは難しいですが、なごや環境大学、愛知学院大学と中部大学とおかげ様でいい関係ができています。これが次の世代、ユース世代をどうやって育てるかというところで非常に重要だと思っております。

なんでそんなことを言うかという、私は COP10 において、従事していただいた若者に対して、2050 年、愛知目標の「Living in harmony with nature」この言葉を実現してねと言いましたら、質問があるのですが先生その時まで生きていますかと。

しかしその意見は非常に良くて、自分たちがそういったところになっていかなきゃいけないと自覚の裏返しだと思います。

僭越にも私のほうから指名をさせていただいた委員の皆様方、あるいは実行チームの皆様、是非そうした意味での志を引き継いで頂きたい。

委員長が生んだあるいは千頭さんが生んだ恐竜の卵が大暴れしてこれから来る社会的大変動において、経済の方向に世の中を動かそうと力が働きますが、その時にはモンスターと恐竜になっていただいて、主に未来の為に今どうするのかと議論をしていただければと思う。

どうもありがとうございました。

閉 会

議長からすべての議事が終了したことが宣言され、事務局から総会の予定がすべて終了したことを伝え閉会。